

藤麻です。

日頃は「安全」「安心」「快適」な車両運行管理業務にご尽力いただき誠にありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

本年度も、新型コロナ「オミクロン株」の感染拡大により研修会の開催を断念し、HP掲示板への掲載という形となりました。ご理解の程、宜しくお願い致します。

さて、本年はコロナ禍を通して見えてきた「当社の進むべき方向」について、皆さんといっしょに考えてみたいと思います。

まずは、コロナ禍の現状について、皆さんと認識を共有させていただきます。

今回のコロナ禍は、我々の仕事・生活習慣そのものに、画期的な変容をもたらしつつあります。企業や行政では、オンラインやリモートワークが急速に広まっています。DX（デジタルトランスフォーメーション）で従来のやり方を変えていけるのか、さまざまな方面で模索が続いています。結果として、『人の移動を伴わない社会が到来するのか。一方、そのような社会は本当に我々が

望む社会なのか』という、根本的な疑問が投げかけられているように思います。「バスやタクシーの利用者数は、コロナ前の8割ほどしか戻らない」とする見通しもあるようです。

我々の仕事は人の移動をサポートすることです。「安全」「安心」「快適」な運行（移動）サービスを通じて、お客さまの企業活動を支えている仕事です。そういった日々の業務を通じて皆さんは、「人流の抑制では、お客さまや人々の元気・活力が生まれることはない」と肌で感じていらっしゃると思います。昨年12月、コロナが一時収束した時には、多くの方が、他者とのリアルな接点を求めて積極的に移動を再開したことを振り返りますと、『人の移動を伴わない社会は我々が望む社会なのか』という問いへの答えは、明確に示されたように思えます。

また、昨年のNHK大河ドラマでは渋沢栄一翁の生涯が紹介されました。彼が実践したことは大きくは以下の2点だと思えます。まずは、金銭の流通のため、銀行と株式会社をつくったこと。もう一つは、物と人の流通のため、鉄道と運河を整備したことです。『人・モノ・お金の流通』が、経済や人々の生活の活性化に不可欠であることは歴史も証明するところです。

「安全」「安心」「快適」な運行（移動）サービスを通して、お客様の元気・活力をサポートしていくこと、コロナ禍に際して、このことが我々の仕事の意義として、より明確になったと思っています。

このように、コロナ禍の中で、我々の担う「人の移動」の大切さを共有したうえで、それでは「当社の進むべき方向」を考えてみたいと思います。私は、大きくは2つの方向だと考えています。

一つ目は、現在のお客様の取引基盤をよりしっかりした“柱”として確立していくことです。それには言うまでもなく、皆さん一人一人のご協力が必要です。

毎年申し上げていることですが、私は「当社の『質』の向上」すなわち「我々が目指すお客様へのサービス品質（「トーコー品質」）の向上」が、当社の持続的成長の要であると考えています。「質」の向上には完成形はありません。我々はこれまでも「トーコー品質」の向上に努めて参りました。コロナ禍の今だからこそ、ますます重要になっている「人の移動」に対して、「トーコ

一品質」とは何かを皆さん一人一人が振り返り、考えていただきたいと思います。皆さんが心から誇りに思い、社会やお客さまからなくてはならない存在だと感じて頂けるように、私自身も「ト
ーコー品質」とは何かを深めているところです。一人一人の考える『質』の総和が、引き続き「お客さまから選ばれる会社」であり続ける原動力になると思います。

二つ目は、「モビリティ（移動）革命」に臨んで、当社にふさわしい対応のあり方を模索していく必要があるということです。

自動車産業は製造業からモビリティ（移動）産業へ変革しようとしています。その結果、技術革新は一層進み、人の移動の姿が大きく変わっていくでしょう。2025年の大阪万博では「空飛ぶクルマ」の運行も検討されています。新たなモビリティ（移動）サービスには当社もチャレンジして参りたいと思います。

ただし、モビリティ（移動）革命は、メーカーの技術革新だけが進んでいくことはないと思います。我々も含め、鉄道、バス、タクシーに代表される運行（移動）サービスを提供する会社、そして、移動の先にある宿泊、飲食等の様々なサービスを提供する

会社を抜きにして、モビリティ（移動）革命はなし得ません。コロナ禍で最も苦勞しているこれらの会社こそ、今後のモビリティ（移動）革命の主役になると思います。新しい時代の元気・活力ある『人流の創出』こそ、その革命の最終目標だからです。

当社も、我々にはないノウハウを持つ会社とともに知恵を絞って『人流の創出』にチャレンジしていくことが必要だと考えています。

モビリティ（移動）革命への対応のあり方を模索していくと共に、技術革新がいかに進もうとも、決して変わらないお客さまに対する「トーコー品質」を追求していきましょう。

モビリティ（移動）革命への対応と「トーコー品質」を追求は、新時代のモビリティ（移動）サービスをより「快適」にし、そしてモビリティ（移動）の先にある『人と人のつながり』を支えることだと信じています。

話を少し変えます。岸田内閣の下、“新しい資本主義”、「成長」と「分配」が盛んに議論されています。皆さんの福利厚生・給与体系等についても引き続き検討しております。基本的な考え方

は全員一様の改善ではなく、メリハリのある改善だと考えています。「当社の進むべき方向」をベースにした持続的成長（業績）と歩調を合わせつつではありますが、しっかりとした制度を策定していく所存です。

先日東京の世田谷美術館で開催されているグランマ・モーゼス展（「素敵な100年人生」）を見学する機会がありました。彼女は、無名の農婦から70代で本格的に絵を描き始め、80歳の時ニューヨークで初めて個展を開き、100歳まで絵を描き続けた方です。アメリカ人なら誰もが知る国民的画家です。彼女のエッセイのひとつ“仕事と幸せと”の一文をご紹介します。話を締めくくります。

「仕事とは、仲間意識を育む楽しい機会でもあったのです。こうした仲間意識は、結婚式や、ご近所での引越しを手伝うといった地域の行事にも表れています。（中略）現代からすると、こうした楽しみは奇異なものに見えるかもしれませんが、根底にある真実は何も変わっていません。友情を育み、達成感を味わうことは今でも幸せになる秘訣なのです。」

仕事とは楽しい機会であり、仕事ができることに感謝する。そして、友情を育み、達成感を得ることがいつの時代も幸せになる。このことを全員で共有したいと思います。

最後に、新型コロナの感染拡大が続いています。収束とはなかなか言いづらい状況です。皆さんそしてご家族に於かれましては、健康に引き続き留意していただきますようお願い致します。